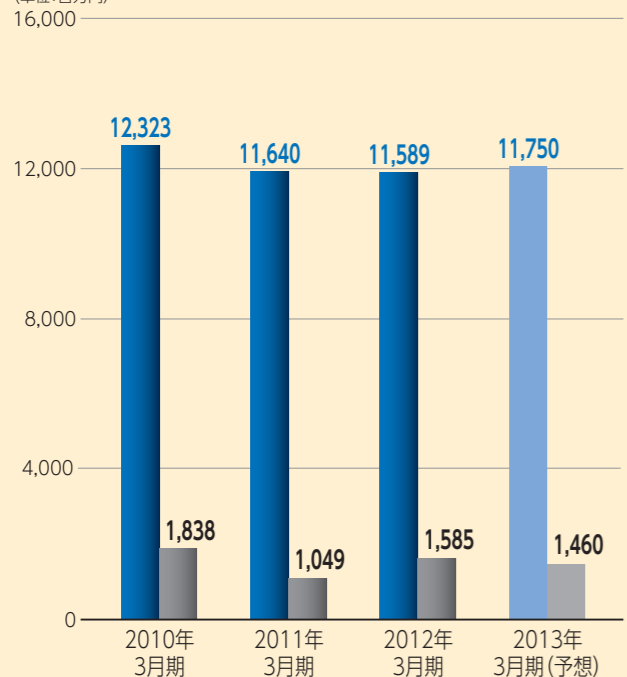


業績の推移

売上高／経常利益

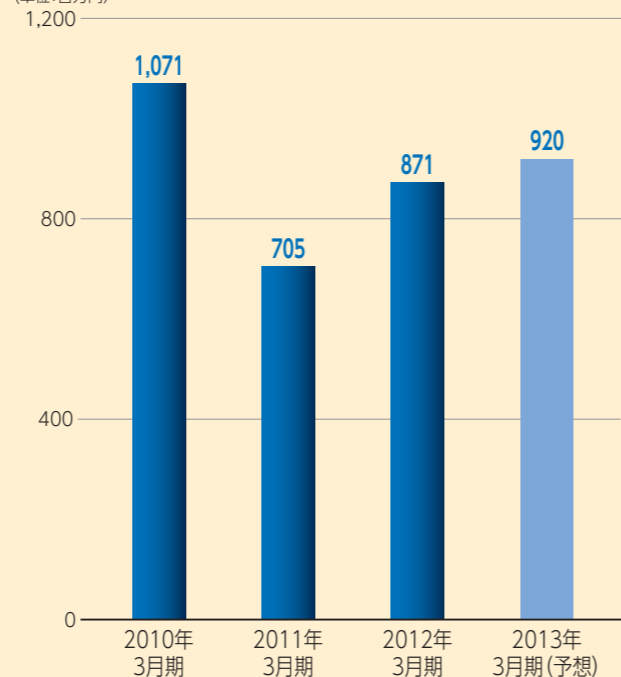
■売上高 ■経常利益

(単位:百万円)



当期純利益

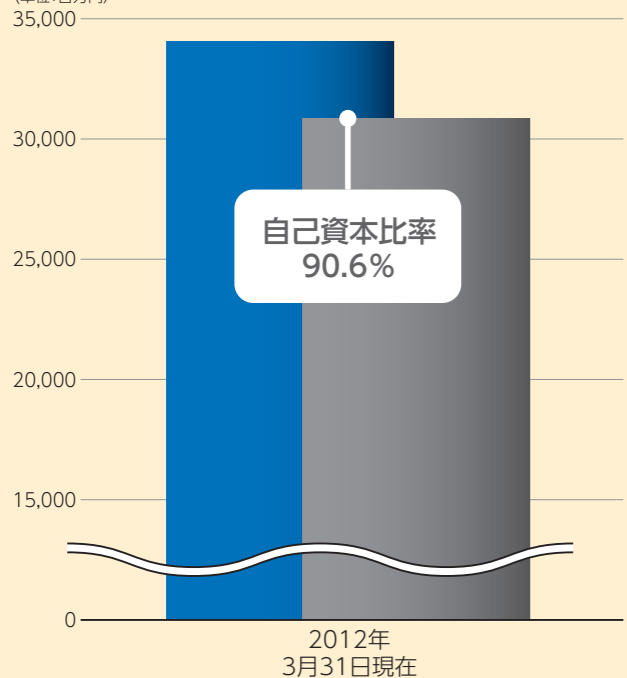
(単位:百万円)



自己資本比率

■総資産 34,081 ■自己資本 30,864

(単位:百万円)

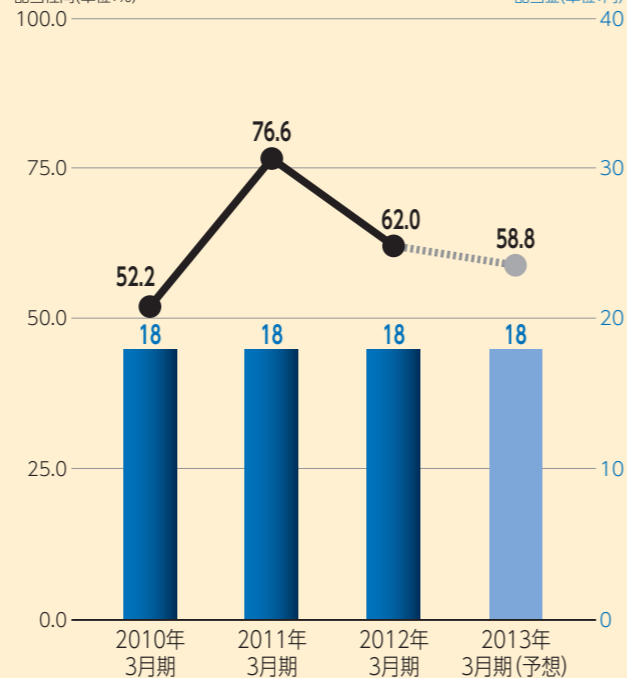


株主還元

■配当金 ●配当性向

配当性向(単位:%)

配当金(単位:円)



Yomeishu

個人投資家の皆様へ

養命酒製造株式会社

会社概要 (2012年3月31日現在)

会社名 養命酒製造株式会社
 所在地 東京都渋谷区南平台町16-25
 従業員数 267名
 資本金 16億5,000万円
 設立 大正12年(1923年)6月20日

上場年 昭和30年(1955年)東京証券取引所に上場
 昭和36年(1961年)名古屋証券取引所に上場
 証券コード 2540
 決算月 3月
 単元株数 1,000株
 WEBサイト <http://www.yomeishu.co.jp/>



証券コード：2540

生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する



証券コード/2540 上場市場/東証一部・名証一部 単元株数/1,000株

400年変わらない健康へのこだわり

健康維持に欠かせない薬酒として愛されてきた「養命酒」。その歴史は、慶長7年(1602年)、信州・伊那谷の塩澤宗閑翁が薬草を採取して創製した薬酒から始まる。以来400年、養命酒は休むことなく造り続けられ、国内外の人々の健康生活に貢献してきた。

同社は、売上高の92%を占める「養命酒」によって安定収益を確保しつつ、新たな成長分野の開拓も怠っていない。特に力を注ぐのは、養命酒で培ってきた研究成果を活かした新商品の開発と拡大。

東洋ハーブを配合した“香り”を楽しむリキュール「ハーブの恵み」を2010年に発売し、2012年3月には、同商品をソーダで割った缶入りカクテル「ハーブの恵み スパークリング」がシリーズ商品に加わった。今後、独自の“ハーブ酒市場”を築くべく、さらにラインナップを強化していくという。

ほかにも、ノンカフェインの栄養ドリンク「ハーブ

プラスHerb+」や、中央アルプスのナチュラルミネラルウォーター「養命水」、養命酒の原酒と同じ製法を継承する「家醸本みりん」など、いずれも養命酒で蓄積した資産を活かした商品だ。

海外でも高い評価を得ている「養命酒」。香港では50年以上、マレーシア、シンガポールで40年以上、台湾で20年以上、現地の人々に愛されてきた。今後は東南アジアを中心に市場環境や現地ニーズを把握し、養命酒だけでなく「ハーブの恵み」の輸出など、さらなる海外市場の拡大を目指す。

養命酒がもたらす成長の種は、製品だけではない。同社は2010年、長野県諏訪市にショップとレストランの商業施設「くらすわ」をオープンし、オリジナル商品などを販売する。信州でのネットワークを活かした事業として期待されている。また2011年、年間工場見学者数10万人を達成した駒ヶ根工場では、見学施設「養命酒健康の森」を運営。こうした施設で顧客ニーズを把握し、既存商品の見直しや新商品の開発につなげている。また、自社で通信販売サイトも運営する。

養命酒関連事業

暮らしに寄り添いながら健康をサポート。海外事業、通販事業にも取り組んでいる。

YomeishuオンラインショップURL <http://www.yomeishu-online.jp/>



「薬用養命酒」



「ハーブの恵み」



「ハーブプラスHerb+」

施設運営事業

「くらすわ」と「養命酒健康の森」を通じ、お客様へのおもてなしの心を実践。

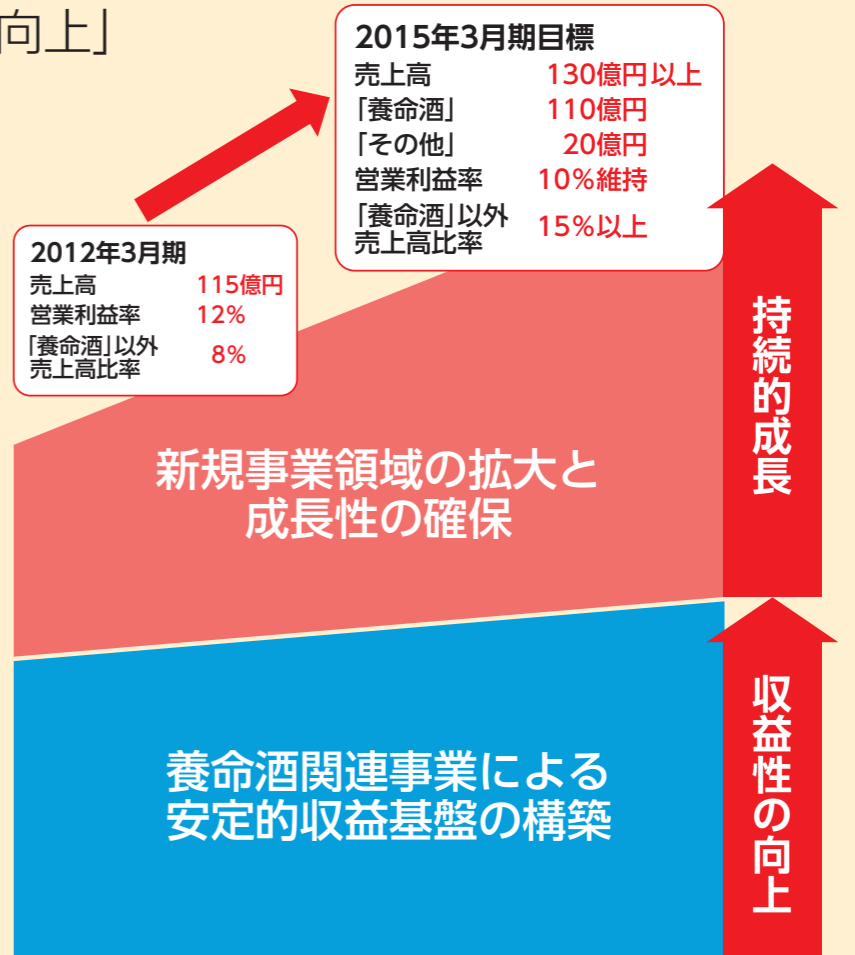


「くらすわ」

中期経営計画の具体的な施策

「持続的成長と収益性の向上」

- ハーブ関連、酒・食品商品開発
- 「くらすわ」取扱商品開発
- 海外向商品開発
- 販売チャネルの拡張
- 海外市場の領域拡大
- 「薬用養命酒」の効率的販売促進活動
- 収益構造の一層の改善



狙いは、販路拡大と新たな顧客の獲得だ。さらに、同社は2013年7月より太陽光発電事業を開始する計画。埼玉県鶴ヶ島市の所有地を有効活用する。

これらの新しい取組みの根底にあるのは、「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という養命酒製造の経営理念。これは、養命酒が生まれた400年から、連綿と受け継がれてきた精神でもある。

目指す。具体的には、「ハーブ関連、酒・食品商品開発」「くらすわ」取扱商品開発」「海外向商品開発」の各商品開発の強化と、「販売チャネルの拡張」「海外市場の領域拡大」により、「新規事業領域の拡大と成長性の確保」を実現し、持続的成長を狙う。また、「薬用養命酒」の効率的販売促進活動」等により、「養命酒関連事業による安定的収益基盤の構築」を実現し、収益性の向上を図る。これにより、中期経営計画の最終年度の2015年3月期には、「養命酒」110億円、「その他」20億円の売上達成を目指す。

持続的成長に向けた事業構造の変革

今期、新たな中期経営計画をスタートした養命酒製造。「新規事業領域の拡大と成長性の確保」「養命酒関連事業による安定的収益基盤の構築」「大正製薬株式会社との業務提携強化」「保有資産の見直しと積極的な活用」「経営基盤の強化、高度化」「社会的使命への取り組み」の6つの戦略に基づいた各施策を推進し、「事業構造の変革」「薬用養命酒の安定的な販売堅持」「収益構造の改善」を遂行。中期経営計画の最終年度である2015年3月期には、売上高130億円以上、営業利益率10%の維持、「養命酒」以外の売上高比率15%以上の実現を

健全な財務体質を維持しつつ成長に向けて投資

「養命酒」という安定収益源を持つ同社は、自己資本比率90.6% (2012年3月末現在) と財務体質も強固だ。今後も成長に向けた投資とバランスを取りつつ、健全な財務体質の維持に努める。

また同社は、株主への安定的な配当継続を重要課題とし、1株当たり18円の配当を維持。今期も18円の配当を予定している。